

2023年度 関東学生水球リーグ戦水球【戦評】

会場：日本体育大学

【2023/6/25】

この試合のプレー集計

入替2																	
日本大学	16	<table border="1"> <tr><td>3</td><td>—</td><td>0</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>2</td></tr> <tr><td>7</td><td>—</td><td>4</td></tr> <tr><td>3</td><td>—</td><td>5</td></tr> </table>	3	—	0	3	—	2	7	—	4	3	—	5	11	成蹊大学	
3	—	0															
3	—	2															
7	—	4															
3	—	5															
		PSO															
審判:		黒崎 千智															
		潮崎 正一															

	30	SH数	36	
日本大学	6	速攻数	7	成蹊大学
	19	ST・SB	11	
	13	SH・P誘発アシスト	11	
	54%	GK阻止率	30%	
	9	EX反則数	8	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

1部2部入替戦の第2試合。3年連続の両チームによる入替戦となった。一昨年は成蹊が日大を下して1部昇格、昨年は逆に日大が成蹊を下して1部復帰。今年の両チームのレベルからすれば、やや日大に分がある状況だが、成蹊はどこまでDF重視で後半勝負に出られるかが勝負の行方を左右する一戦に。

1P

両チームともに慎重な立ち上がりとなったが、日大⑩安藤がパスをインターセプトして一気に日大が攻勢をかけ、センター⑩藤井が退水を誘発してポイントゲッター④仲本が決めて日大が先制。しかしその後は双方決め手がなく、一進一退の攻防が続く。戦前の予想通り、成蹊のDFがうまく機能し、ロースコア試合に持ち込んでいる状況であった。そうした展開からか、日大センター⑩藤井がレッドカード反則で退場。しかし成蹊側は攻撃の要のセンター⑩宮坂が完全に封じ込められ、分厚い攻撃ができない状態が続く。ピリオド終盤、成蹊の焦りからのシュートミスを残っていた④仲本が難なく決めて2点目。さらにセンター⑩宮坂がボール接点で⑩安藤に競り負けてボールを奪われ、⑧池田が決めて日大3-0成蹊で第1ピリオド終了。

2P

成蹊大は最初の退水攻撃は失敗したが、⑩宮坂が⑥加治木にボール接点で競り勝って前線へ。⑦富永がタイミングよく6mSHを決めて成蹊が1点を返した。しかし直後の日大攻撃、左サイドから⑨仲本が決めて、さらに成蹊大のシュートをGK⑬政所がセーブし、そこからの攻撃で⑨仲本がペナルティを誘発し、②コップが決めて点差を広げた(日大5-1成蹊)。ここで成蹊はタイムアウト。その効果もあって、すぐさま⑦富永が退水を取り、③松島が決めて点差を詰めた。しかし、日大は⑥加治木のインターセプトからタイミングよく⑧池田が6mSHを決め、日大6-2成蹊で前半を折り返した。

3P

成蹊大としては後半に盛り返してゲーム主導権を奪いたいところだが、日大ペースは続き、⑩安藤のインターセプトからの速攻を自身が決めて7点目、さらに成蹊大の退水攻撃のシュートを⑨仲本がブロックしてからの攻撃で④仲本が彼らしいプレーで8点目、さらに成蹊のシュートミスを突いて⑨仲本が退水を誘発し、それを⑫伊波が決めて9点目をマーク。沖縄勢の動きの良さが目立った展開で一気に点差を広げて、日大が安全圏に。こうなると、日大側のDFには緩みも出て、点取り合戦の展開になった。第3ピリオド終了時点で日大13-6成蹊大。

4P

日大はGKを交代(GK⑬政所→GK①岡田)、スタメンからも変更しての余裕の展開。成蹊大は開始後の左利き③松島のセンターSHで点差を縮めるが、直後には日大⑧池田が成蹊大GK⑬山城からペナルティを誘発して加点し、さらに交代したGK①岡田がシュートをセーブし、前に泳いだ⑦桐畑にロングフィードパスを繰り出して連続得点。この時点で日大15-7成蹊大とほぼ勝負が決した形に。最後、力を振り絞った成蹊が連続得点して追いつけるが、最終的には日大16-11成蹊大で試合終了。日大が1部残留を果たした。

成蹊大の攻撃の軸となる③松島のパス、センター⑩宮坂の動きを日大が封じたことで、成蹊大が後手に回ってしまったゲーム展開。それだけ日大側が相手チームを理解して対処し、1部と2部との力の差を見つけた入替戦であった。